「一行の詩のためには…リルケ『マルテの手記』」から「一篇の詩の最初の言葉」

1968年、リトグラフ、紙
57・0㌢×45・7㌢（大川美術館蔵）

ベン・シャーン

（1898～1969年）

なんと自信に満ちた手でしょうか。力強くざらついた線で描かれた指が、ペンをしっかりと握っています。ここからどのような言葉が生まれてくるでしょうか。

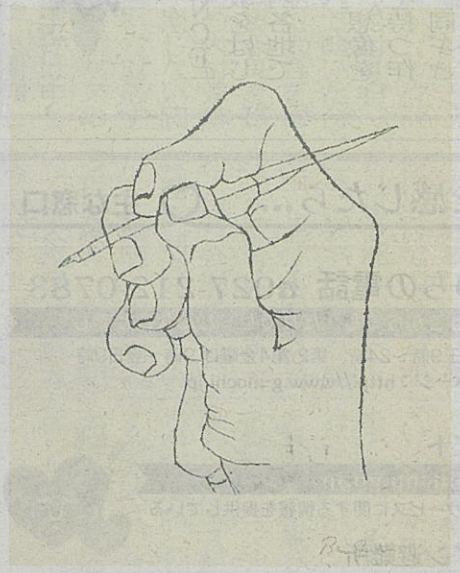
本作は、ベン・シャーンが没する前年の1968年に制作した版画集の最後を飾る一点です。着想のもととなったのが、シャーン28歳のころ、パリで出会ったリルケの自伝的小説「マルテの手記」でした。自分と同じ年齢の主人公に共感したシャーンは、生涯この本を大切にし続けました。

リルケは、詩は感情ではなく経験なのだと記しています。数々の記憶が血肉となり自分と分かちがたく結びついたとき、ようやく詩の最初の言葉が生まれるのだと。ペンを握るこの手にも、長い人生をかけて蓄えた経験を、線や形に託してきた画家の姿が重なります。

（小此木）

大川美術館企画展
「大川美術館・高崎市美術館コレクションによる
ベン・シャーン―伝える手」から

名画の扉



©2026Estate of Ben Shahn/ARS, NewYork/JASPAR,Tokyo G4433